

|       |                                  |                                                                                       |                   |
|-------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 会 議 名 | 令和 6 年度板橋区立郷土資料館運営協議会            |                                                                                       |                   |
| 開催日時  | 令和 7 年 3 月 6 日（木）午後 3 時～         |                                                                                       |                   |
| 開催場所  | 郷土資料館講義室                         |                                                                                       |                   |
| 出席者   | 16 名                             |                                                                                       |                   |
|       | 運営協議会委員<br>（7 名）                 | 学識経験者委員<br>住民代表委員<br>学校教育関係者委員                                                        | 4 名<br>2 名<br>1 名 |
|       | 区 職 員<br>（10 名）                  | 雨谷地域教育力担当部長<br>太田生涯学習課長 齋藤郷土資料館長<br>吉田文化財係長 増田学芸員<br>四戸学芸員 細樅学芸員<br>津金学芸員 杉山学芸員 中村学芸員 |                   |
| 会議の公開 | 公開                               |                                                                                       |                   |
| 傍聴者数  | 0 人                              |                                                                                       |                   |
| 議 題   | 郷土資料館事業報告                        |                                                                                       |                   |
|       | ① 令和 5 年度 事業報告                   |                                                                                       |                   |
|       | ② 令和 6 年度 事業経過報告                 |                                                                                       |                   |
|       | ③ 令和 7 年度 事業計画説明                 |                                                                                       |                   |
|       |                                  |                                                                                       |                   |
|       |                                  |                                                                                       |                   |
| 資 料   | 令和 6 年度板橋区立郷土資料館運営協議会資料          |                                                                                       |                   |
|       |                                  |                                                                                       |                   |
|       |                                  |                                                                                       |                   |
|       |                                  |                                                                                       |                   |
|       |                                  |                                                                                       |                   |
|       |                                  |                                                                                       |                   |
| 所 管 課 | 教育委員会事務局生涯学習課 郷土資料館 03（5998）0081 |                                                                                       |                   |

【開会】 開会挨拶、委員紹介、事務局職員紹介

【地域教育力担当部長挨拶】

【会長挨拶】

【議題】

【郷土資料館事業報告①令和5年度事業結果報告、②令和6年度事業経過報告】

郷土資料館長から資料に基づき報告

【質疑】

○住民代表委員（別府委員）

毎年「武者行列」を年3回（兜づくり・着付け含む）やっているが、学芸員や資料館職員はよくやっていただいております。昨日も鎧下を洗って干し、アイロンがけをして頂き感謝しております。

今回は3つの質問に絞って事前に資料館へ渡しております。

○郷土資料館長

1階展示室階段脇ミニ企画展コーナーの活用について、地域の問題など板橋区関係の歴史ニュースコーナーとして活用してはどうかのご提案でしたが、一から新しく作るのではなく、既にある新しく文化財になった資料等を活用して有効利用していきたいと考えており、今後の課題とさせていただきます。

1階展示室図書スペースに設置している黒電話について、自由に触れて子どもたちに大変人気の展示ですが、説明文の中に「非常時にも繋がりやすい電話」というのも加えたら子供たちにも伝わりやすいのではとのご指摘をいただきました。今後、解説文の修正の時に対応したいと思っております。

社会科見学での説明について、区内の色々な地域から来館がございしますが、その学校がある地域独自の歴史も紹介していくのがいいのではないかというお話をいただきました。これにつきましては文化財係のほうで作成したリーフレットがございします。今回は徳丸と赤塚地域を低学年向けに紹介する、ふりがなを振りわかりやすいイラストをつけたものを作りました。このようなものを活用しながら対応していけたらと思います。この冊子につきましては来年度は板橋地域のものを作ると聞いていますので、今後色々な地域ごとに紹介していけたらと思います。

○住民代表委員（別府委員）

板橋区では桜井徳太郎賞を出しておりますけれども、せいぜい発表は冊子ができる程度ですが、小学生や中学生の分はそのような所（ミニ企画展コーナー）で展示したら良いのではないかと思います。

ダイヤル式の黒電話は（プッシュ式と比べて）電気がなくても繋がるので、非常に使えるんだよ、ということをおっしゃってくださいました。

社会科見学については、まず地域ごとの特徴を話したほうがいいのと、もし可能であれば学校ごとの遺跡や歴史的背景の話題などをできれば、子供たちに興味を持たせることができるんじゃないかと思います。

○生涯学習課長

まず桜井徳太郎賞の件についてですが、本課で行っている今年で第23回という歴史あるものでございます。小学生の作品を展示したらというお話をいただきました

ので、こちらのほうは検討させていただきます。

黒電話につきましては、今の小学生は黒電話を知らない子たちが多ということで、そこを踏まえてうまく紹介していけたらと思っております。

また埋蔵文化財の関係で地域ごとの埋蔵文化財を見せたほうがいいとのことですが、なかなか民有地だと公開が難しいので、例えば小学校などの公用地や東京都さんの土地で出土したものにつきましては、近隣の学校をご招待して見ていただくというような、体験型の社会科見学も進めていきたいと思っております。

#### ○学識経験者委員（鈴木委員）

冒頭に入館者数についての説明があったと思いますが、令和5年度の事業結果報告では減少傾向にあるということで、運営としては何故減少しているのか検討していく必要があると思いますが、小中高生の減少の原因は少子化の影響や夏場の天候の厳しさからなど、（運営館として）総合的な見地からの判断・分析があるかと思いますが、減少している背景などについての館の考えを聞かせてください。

#### ○郷土資料館長

入館者数は当館としても一つの指標としていますが、一つはコロナが明けて戻ると思われたものが戻らなかったことと、当館だけではありませんが今まで外に出ていた高齢者等の意識が変わってしまったことも考えられますし、外出の制限が解除されたことで（逆に）色々な場所へ行くようになったなど、そういったコロナ以降の認識の変化が伸び悩む要因になったのではと考えております。

#### ○学識経験者委員（鈴木委員）

区内の様々な施設の利用者数などを分析しながら、総合的に判断していく必要がある。例えば都内23区でもどのような現象があるのか、比較しながら見ていくことが必要なかと思えます。確かにコロナの影響で高齢者が外出を控えていることもあるかもしれませんが、あまりそうだと断定して判断はできないので、総合的に見ていく必要があると思えます。

また館側としてのPR、広報のあり方や展示の企画そのものに対する評価につながっているのか考えながら検討していく必要があると思えます。魅力のある企画・展示の仕方とか、広く皆さんに知ってもらうための活動など何らかの工夫が必要だと思います。数字だけの報告にせず、何が原因でどうすればいいのかを考えていかないと、また同じことの繰り返しでは職員の士気にも影響すると思うので、そのへんのことも考えていく必要があると思えます。

#### ○生涯学習課長

入館者数については区内の利用者を見たほうがいいとのご意見をいただきまして、隣接の美術館や他の文化施設を参考にさせていただきたいと思えます。23区の状態となると中々追いかけるのが難しいところがありますが、関連の博物館等に聞いてみたいと思っております。

また広報等での展示の評価というようなお話もいただきました。当然魅力ある展示をしていかなければならないところで、1、2年前には刀の展示などで若い方に結構来ていただき入館者数が上がったというような実績もございますので、学芸員と相談しながら魅力ある展示に努めて参りたいと思っております。

○会長（森田委員）

数字をどう分析するのなかなか難しいところではありますけれども、確かに刀の展示ではお客さんは入りますが、そういう「ウケ」を狙ってるだけでもいけないので、なかなかバランスが難しいですがちょっとお考えいただきたいと思います。

○学校教育関係者委員（木村委員）

まず学校代表としてお礼ということで、今年度は紅梅小と板橋第一小の150周年ということで、このような計画をして頂いてありがとうございます。

また出張授業の高島第六小学校の出前授業について、私が部長をしている板橋区教育会社会科研究部という所の研究会の中で、板橋区の土地利用の変遷ということで学芸員の方に来ていただき、それがとても有効だったという話が授業者の方からありまして、ゲストティーチャーとして来ていただき生の声を聞くというのは子どもたちにとって大切なことなんだと再認識したと先生方もおっしゃっていました。

○生涯学習課長

学芸員の出前授業が大変良かったとお褒め頂きましてありがとうございます。郷土資料館もそうですし、本課の文化財係のほうでも出前授業等やってございますので、活用の機会があればお申し出いただければと思います。学芸員の数に限りがあるので毎回というわけにはいかないですが、できる限り生の学芸員の声をお伝えさせて頂きたいと思います。

○会長（森田委員）

本務の仕事が大変になっていますが、可能な限り来ていただけるとやっぱり子どもたちも喜ぶということで、その辺を皆さんでうまくマネジメントされて、特定の方に集中しないような形でやれるといいんじゃないかなと思います。

○住民代表委員（江口委員）

私はまち博友の会という所の会長を仰せつかっております。今回（郷土資料館と）全く同じ悩みでして、コロナのおかげでいろんな行事を開催できなくなったと同時に会員数も減少しました。それをどうにか変えようと色々考えてやっていますがなかなか（難しく）、本当にコロナだけなのか原因を考えてるところです。郷土資料館さんも同じ問題を抱えているということで、今後の進め方等ぜひ相談させていただきたいと思います。

また私ども郷土史勉強会と銘打って文化財係の方や郷土資料館の方に出前講義をお願いしまして、そのときは参加者も非常に多いんです。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

○生涯学習課長

まち博さんには大変お世話になっており、持ちつ持たれつでぜひよろしくお願ひしたいと思います。

【議題】

【③令和7年度の事業計画】

郷土資料館長から資料に基づき報告

## 各展示企画案について各担当の学芸員から説明

### 【質疑】

#### ○学識経験者委員（入江委員）

赤塚周辺の富士塚巡りというのをやっていらっしゃいますね。せっかく宿場の展示をするのであれば、宿場を散歩するような企画ができないのかなと思うんですね。私は多分中学のときだと思いますが、板橋宿一里塚の遠足にきているんです。昭和30年代でも覚えてるんですね。板橋宿に行ったなど。そのぐらいフィールドワークというのは印象深いです。今回の宿場の展示では予定はないようですが、やはり現場を歩くというのが大事だと思います。

板橋区にとって今世紀最大の発見という大量の古文書が出てきたが、学芸員の通常業務にプラスしてその整備をやれというのは大変ではないのか。展示ケースなど（金銭の）問題もあるが、やはり人間が足りないのではないのか。例えば古文書講座の参加者に呼びかける等、幅広く市民のボランティアを活用してはどうか。時間的余裕のある知的好奇心旺盛な高齢者はたくさんいるはずで、人がいれば膨大な資料の整備のお手伝いができるのではと思い、ボランティアの活用を提案します。

#### ○文化財係長

文化財係のほうで10月から11月に文化財の特別公開事業をやっており、板橋区文化財ぶらり歴史遺産の板橋宿編を出すことになっています。今年度は板橋宿の文化財を公開することになっており、（和宮下向の）展示期間に合わせて文化財の公開事業と街歩きみたいなものも含めて計画していますので、生涯学習課全体で連動して対応していきたいと思います。

#### ○会長（森田委員）

博物館の中だけで連携していく問題ではないので、教育委員会、それからボランティアの方など色々建設的なご意見・アイデアを出して頂いたので、ご検討していただきたいと思います。

#### ○生涯学習課長

先ほど富士塚の話を出して頂きました。一里塚については昨年度東京都知事に（銘文を）書いて頂いたものを彫ったもので、そういったところをPRし集客につなげていければと思っております。

6000点の古文書発見の話について、こちらが学芸員の業務に付加されるのお話をいただきました。こちらについては委託できるところは委託させていただき、学芸員と分けてできたらと思います。学芸員の監視・監修が必要なところが出てくると思うが、委託の力を借りたいと思っています。

ボランティアの活用については、例えばまち博さんや史談会さんにご協力をいただくなど、今後ますますボランティアの活用を図っていきたい。

#### ○会長（森田委員）

問題として、学芸員や教育委員会にはコーディネート力が求められていると思う。委託という言葉が出たが、委託であれば当然研修が必要であり、そのコーディネーターとしてのスキルを今後身に付けていくといった課題がある。

○副会長（中野委員）

小学校の社会科見学で1月から3月に集中してくるのは、そのようなカリキュラムになっているのでしょうか。

○地域教育力担当部長

3年生3学期の単元が板橋区の移り変わりということで、学習に合わせて行っています。

○副会長（中野委員）

1月から3月に小中学生がここに来るのであれば、小中学生が関心を持ちやすいように企画展の内容と時期を考えたほうがいいと思います。やはり小中学生が関心を持つものと大人が考えて関心を持つものは多少違うと思います。

体験型の社会科見学を望む声が小中学校の方から出るというのはよくわかります。大学も今年の4月の新入生から新学習指導要領で学んだ学生に変わります。小中学生の学習指導内容も変わっており、重要視されてくるのは自ら課題を見つけて探求し、発表する課題探求型授業です。それが入試にも反映されてきています。小中学校の先生方はそこを念頭に置いて、子どもたちになるべく体験・参加するような、能動的な姿勢を身につけられるような指導を行いたいのではないかと思います。体験型の中でも「着てみる・撮影する」などは子どもたちも喜ぶのではないかと思います。この館で非常に少ないのは音声を使った展示です。次の企画展では聞き書きの結果を音声で聞けるとのことで、これは（個人情報扱いに留意しつつも）子どもたちも喜ぶでしょうし、先々の記録としても残っていくものだと思うので、映像や音声など視覚・聴覚に訴えるというのは非常に重要なことだと思います。

映像や音声から得られる情報は、視覚や聴覚に障害を持つ人にとっても重要であり、多様性が叫ばれている社会では展示の中に映像や音声が入ってくるといいのかなと思います。

区内に住む高校生へもっと情報が届くようにすれば、課題探求型の材料として来館する動機になるのではないのでしょうか。例えば「資料館の活用方法を考えよう」など課題探求型のテーマになり得ると思います。

民俗学を専攻している大学生にアピールする方法として、桜井徳太郎先生のコレクションはもう少しアピールしてもいい気がします。中央図書館や区役所のロビーでも桜井徳太郎を活用した展示を見たことがありました。この資料館が桜井徳太郎コレクションをいくつか見せることができるなら、大学院生含め研究者は関心を持って見たい人がでてくるのではないのでしょうか。せっかく桜井徳太郎先生がいたのですから、もっとそれを活かしてもいいと思います。小中高そして大学生にそれぞれ違うアピールの仕方があっていいのではないのでしょうか。

○生涯学習課長

小中学生が関心を持つものというところで時期というご指摘をいただき、まさにそうだなと痛感した次第です。今後の展示の予定もございますので令和7年度にすぐ変えるのは難しいと思いますが、先の年度のところで少し考えていきたいと思っています。大人に対する展示についても魅力ある展示をというご指摘をいただき、合わせて検討していきたいと思っています。

課題探求型のお話をいただきまして、まさに今小・中学生もそう変わってきてい

るところで、今までは学芸員がほとんど解説を行い（児童・生徒に）考える機会がないところが多かったと思いますので、学芸員がまず解説をしてから体験をして考えていただいて、最後に質問する形にしたいと思っております。学芸員がずっと一緒ではなく最初と最後というようなイメージで社会科見学の対応を変えていきたいなと思っております。

音声やARのお話をいただきまして、実は板橋デジタル歴史探訪というものがございます。資料館と熱帯館、高島平周辺の地域でございますが、（現地へ）行ってスマートフォンをかざすと解説が出てくるというものをやっているところでございます。来年度につきましても板橋宿のところや私どもの所管してる教育科学館、そういったところで恐竜がでてくるとか、解説が出てくるなど民間さんとタッグを組んでやるというところで考えておりますので、これからどんどんふやしていきたいなと思っております。障害をお持ちの方で耳と文字というお話もいただきましたので、展示にできる限り文字を入れるような形でふやしていきたいと思っております。

区内の高校生へ情報発信というご指摘をいただきまして、私どもはインスタを結構やっていますので、何かインスタで高校生に刺さるものができればいいところで、学芸員と相談したいと思っています。

桜井徳太郎コーナーにつきまして、桜井徳太郎は文化財が所管しており、また中央図書館にも様々なものがありますので、3か所で連携しながら考えていきたいなと思っております。

#### ○文化財係長

桜井徳太郎賞は文化財係でやっていますが、桜井先生の資料のほうは公文書館の所管になっておりまして、そことも連携して公開をしていきたいと思っております。

#### ○会長（森田委員）

大変重要な宿題がたくさん出ていて大変だと思いますが、できるところからやっていただきたいと思います。解説を少なくしてできる限り考える（ことを増やす）でやっていくことは易しそうにみえて結構難しい。科学館のような博物館などはうまくいくことがあるが、歴史系の博物館では難しく大変だと思うが頑張ってもらいたいと思います。

#### ○学校教育関係者委員（木村委員）

ミニ企画展の「ちょっと昔の道具」について、現在3年生が学習する内容でおよそ100年前、50年前、現在の3つの時代がどういうふうに移り変わってきたか学習するにあたり、まさにその50年ぐらい前というのが昭和の後期から平成の初期に当たっていくというところで、家電も含めて触れる（展示）というのは3年生の学習にちょうど当てはまる。学習の時期は板橋区の移り変わりは3学期でやるが、道具を扱うのは3学期の一番初めの時期で、この（ミニ企画展の）時期が11月29日からということだと1月の10日から20日ぐらいまでの間に学習する内容としてちょうどよい。そういう所をもっとアピールするか、子どもたちも喜ぶので学校側からすると「ミニ企画展」なのはもったいないと思います。

来年度企画展「戦後80年 区民が生きた戦争の時代」というところについて、8月15日が終戦の日ということでこの時期に充てることが多いと思うが、小学校6年生がこの時代を学習するのは12月なので、12月くらいにこういう内容のも

のがあると3年生だけでなく近隣小学校の6年生も資料館に行ってみようとなるのではないかと。現在は板橋区で戦争があったことを知らない子どもが多く、板橋区は、自分たちの住んでいる場所は関係ないと思っていて、広島・長崎は教科書に出てくるが板橋区の中にも空襲で亡くなったり被害を受けたりした方がいたということを知れて、板橋区でも戦争があったんだと生の声を聞くことができるのは子どもたちにとって大きなことだと思います。時期としてはちょうど江戸時代くらいをやっている子どもたちはピンと来ないかもしれないが、来年度は無理でもそういう所を考えていただけると小学校としてはありがたいです。

○会長（森田委員）

学校との連携はすごく大事なことで、貴重なご意見をいただいた。既に決定したことは仕方ないが、今後そういった所を考えて決めていって欲しいという貴重な提言なので、ぜひ考えていただきたいと思います。

○学識経験者委員（鈴木委員）

学校関係で生徒・児童がきて調べて学校で発表するのであれば、それを資料館で発表してもらおう。そうすると保護者や親類縁者が一緒にきて来館者数が増えるので、ぜひ学校内で終わらせずに資料館で成果発表をやってください。先生方との事前打ち合わせなど協力する中でやってみてはどうでしょうか。

○生涯学習課長

小学校の社会科見学については特に変えていかなければいけないと思う点でございます。発表会というすごくいいご提案をいただいたと思いますので、（木村委員と）この後ご相談させていただきたいと思います。

○学識経験者委員（鈴木委員）

大学生も同じで、ここ（資料館）で何か発表するとか成果を出すというのは絶対に人が来ると思います。

○会長（森田委員）

博物館の利用の仕方というのは本当に色々あるんだという所を今日（鈴木委員はじめ）重要な提言を出していただいたので、ぜひお考えいただきたいと思います。

○住民代表委員（別府委員）

戦後80年の企画の中で、赤塚新町には成増飛行場が昔ありまして、この辺の人は雪が降ると雪掻きに行ったとか、隊員の父兄が成増駅前の武蔵旅館に泊まっていたなど（飛行場は）地元に密着しているので、そういった話も加えていただけたら興味が深まると思います。

中山道に関しましては、御宿場印というのが今度板橋宿から坂本宿までできたそうなので、そんな紹介もしていただけると観光協会としてもいいと思います。

高島秋帆に関しては、松月院が非常に深い関係がありまして、今回もいろんな展示品をお借りするようですが、松月院にも宝物館があるのでそこも連携していくといいんじゃないかと思います。かなり昔に高島秋帆をやったときには見学会がありまして、松月院から徳丸が原、それから電車で白山まで行くというのがありました。またそういうのがあると面白いのかなと思います。



スマホを使った音声利用について、成増小学校の展示会・展覧会はQRコードを使ってスマホで見せているので、ぜひ資料館でもやって欲しいというのは前からお願いしていた。HPに載せておけば（スマホで読み込んで）できる。イヤホンを使用しないと周りに迷惑になる問題があるが、音声の利用は難しい問題ではないと思います。

他の博物館でみたが、電子カルタや〇×クイズを電子的にできるとか、（子どもたちの）体験になるのでいいのかなと思いました。

#### ○生涯学習課長

最後に皆さまから様々なテーマの意見をいただきました。すぐにできるところとできないところはございますが、できる限り一歩ずつ前進していきたいと思いますので引き続きご指導いただければと思っています。

#### ○学識経験者委員（鈴木委員）

全体を通した問題として、郷土資料館の抱える業務量の多さで、寄せられている期待は非常に大きいですが、今の人員で果たして郷土資料館や教育委員会はやっていけるのか考えると、やっぱりもう一人（学芸員が）欲しい。

今は自分たちだけで全部やる時代ではなく、区民参加型とかボランティアのお話も出たが、やはり板橋区の郷土資料館というところは学芸員や職員の方だけで成り立つのではなく、多くの人が博物館を利用して何か新しい文化を生み出すような場であって欲しいと思います。そういった博物館を活用した地域づくりは博物館が主体となるだけでなく、誰かに利用してもらうような開かれた博物館、教育委員会であって欲しい。

23区全部を比較できないが、これだけの人がそろっていて多種多様な事業を展開しているところは少ないので、人員をもっと増やして欲しい。板橋区の文化財行政に寄せられている期待というのは非常に大きいものだと思うので、ぜひそういった形でやっていただけたらと思います。

#### 【閉会】

#### ○生涯学習課長

委員の皆様本当にありがとうございました。本日委員の皆様からいただきました意見を踏まえましてよりよい運営に努めて参りたいと考えているところでございます。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして令和6年度板橋区立郷土資料館運営協議会を終了させていただきます。誠にありがとうございました。